

ます。社会保障や年金も、給付対象と費用負担をめぐって大きな問題が起こってきます。従って、先進国では、福祉や社会保障制度を国家として維持できず、民間のNPOに委ねざるを得ない時代が必ずきます。イギリスでは、「揺りかごから墓場まで」というサッチャーの時代は終わり、福祉や社会保障制度は民間のNPOに委ねるブレアの政策に代わりました。日本を含む先進国全体にそういう時代がくることを予測しなければなりません。

さて、グレン・エステス元RI会長は、「ロータリーは民間最大のNPO」と延べています。もしもそうならば、NPOとしてのロータリーの責任は極めて重くなり、現在的人道的見地からの世界レベルの社会奉仕、国際奉仕のボランティア活動に加えて、自らの国の社会保障制度に関しても、ロータリーがイニシアチブをとる時代がくることを予測しなければなりません。

NPOやNGOは政府が行わない特定分野の活動を、政府に代わって行う組織ですから、当然、政治に関与することになります。従ってロータリーをNPOと定義して、その活動を期待するのなら、その前にロータリーの政治禁の問題を解決しておく必要があります。

再三申し上げるように、職業奉仕実践の受益者はロータリアンです。他の奉仕活動の受益者はロータリアンであってはならないと定められているのに反して、職業奉仕活動によって大きな恩恵を受けるのはロータリアンなのです。もし、現在のロータリー活動にメリットを感じないとすれば、それは職業奉仕活動が充分行われていないことを意味します。ぜひロータリー運動の最も重要な目的は職業奉仕にあることを自覚して、職業奉仕の実践こそが、自らの事業を発展させる最大の要素であり、その結果として現れるのが自らの事業と業界全体の職業倫理高揚であることを自覚して、魅力あるロータリー・ライフを送ってください。

第1分科会

2007-08年度各クラブ会長対象

カウンセラー パストガバナー・地区研修リーダー 高木 貞一郎  
リーダー ガバナーエレクト 横山 公一  
サブリーダー ガバナー 津久井 義孝

報 告

第1分区ガバナー補佐 井上 芙美子



第1分科会につきましては、2007～2008年度の会長の方針又は意見等を発表していただきました。その中で主な方針及び意見について下記にまとめました。

(なお時間の都合上第五分区と第六分区が発表できませんでした。)

第1分区

前橋RC 遠山 巍 会長

- ・合唱を聴く会
- ・自分のクラブを誇りに思うクラブにしていきたい
- ・出席がたのしくなるよう

前橋西RC 町田 庄吉 会長

- ・会員増強 15名～20名 達成可能

前橋北RC 戸所 仁治 会長

- ・ロータリーの野球で初めて甲子園に行き、20対4で勝利してきた。
- ・サンフランシスコの町一昼食年一回、ソフトボールの大会、ふれあいの機会を増やしたい

**前橋中央RC 佐藤 正雄 会長**

- ・ 地行園の支援、毎月お誕生日会をしている、ふれあう機会を増やしている
- ・ CLP推進委員会を作成するフォーラムを増やす
- ・ 20周年の目標のビジョンを立てる

総評 **パストガバナー 高木 貞一郎**

**CLP—クラブの組織運営の合理化をはかることが目的**

第2分区A

**桐生RC 佐々木 裕 会長**

- ・ FM桐生が立上げ、メンバーが出資していろいろPR出来るように整えた。  
一般市民番組作りを続けたい
- ・ 創立55周年を迎える

**桐生南RC 川堀 良治 会長**

- ・ クラブは例会で始まるので月一回夜間例会とする
- ・ 次年度月一回ネクタイ、その他はノーネクタイとする

**桐生西RC 中野 幸三郎 会長**

- ・ 大間々高校の模擬面接を事業主になって面接をしている
- ・ 老人ホーム訪問年4回 会員よりマジックショー等をしている

**桐生中央RC 渋木 敏明 会長**

- ・ 初代会長の引継 社会ポケットの寄付をもらい
- ・ 知的障害者—クリスマスに全員招待している

**桐生赤城RC 武井 庄太郎 会長**

- ・ ロータリーの野球で甲子園に2回出場している

総評 **パストガバナー 高木 貞一郎**

**バランスのある奉仕活動をした方が良い（親睦と責任）**

第2分区B

**伊勢崎RC 前原 恒春 会長**

- ・ 親睦が中心すぎた。
- ・ 地域社会奉仕を重点的にする。

**群馬境RC 石原 順一 会長**

- ・ 38年目—14回国際大会に出席している
- ・ 海外に奉仕したい

## 2007～2008 地区協議会報告書 ●

- ・利根川、広瀬川—堤防の中を倍にしてもらい、河津桜、染井吉野桜等を植え、ロータリー川津桜と名付け、町の人々に喜ばれている。

### 伊勢崎南RC 保坂 恒明 会長

- ・野球—甲子園に来年は行く

### 伊勢崎東RC 松村 史也 会長

- ・フィリピンに水の浄化装置作った。継続的に水の支援を行う。

## 第3分区

### 高崎RC 羽鳥 修司 会長

- ・新しく高崎市になった地域を広めて行く、ロータリーぐるみでお祭りに参加する

### 高崎東RC 井草 秀樹 会長

- ・会員52名でメンバーの気持ちが若い、出席率が良い
- ・ロータリーの楽しさを会員の奥様にも分かちあいたい、例会に参加してもらう。正に ROTARY SHARESである。

### 高崎セントラル 三井田 賢一 会長

- ・地球に優しい、からす川の植林を3年する

## 第4分区A

### 太田西RC 荒井 壮佳 会長

- ・クラブ内の委員会の活動、出席委員会、会員増強委員会を重点的におく
- ・社会奉仕、地域の文化財を保護し、ロータリーのPRをすすめる

### 新田RC 正木 留男 会長

- ・25周年—じゃが芋を植え、6月収穫してじゃが芋祭を行う

## 総評 パストガバナー 高木 貞一郎 強調月間に地区で卓話者を準備している

## 第4分区B

### 館林東RC 富田 佳典 会長

- ・米山奨学金に理解していただき15000円の目標達成

### 館林ミレニアムRC 近藤 候近 会長

- ・国際交流協会 館林よきこいソーランを支援している、市民と外国人との交流を行っている

第5分区と第6分区は発表なし

以上、主な点のみの御報告と致します。

第2分科会

管理運営委員会・IT委員会

カウンセラー パストガバナー 矢野 亨  
リーダー 管理運営委員長 本田 博己  
サブリーダー IT委員長 石原 保幸

報 告

第2分区Aガバナー補佐 笠原 康 利



本田管理運営委員長をリーダーとし、サブリーダーに石原IT委員長、カウンセラーとして矢野PGをお迎えし、分科会を行った。

まず本田管理運営委員長から会員増強について下記の報告があった。

日本のロータリアンの数は年々減少が続いている。一クラブの平均会員数は40人台だが、20人規模のクラブが一番多く存在している。会員拡大を行う為にはクラブを活性化し魅力あるロータリークラブ作りを行わなければならない。その為にはCLP（クラブ・リーダーシップ・プラン）を導入し、クラブの体質強化と活性化を図らなければならない。

地区ではDLP（地区リーダーシップ・プラン）によってガバナー、ガバナー補佐、地区委員会の任務と責任を明確にし、クラブ活性化の為、地区内クラブの支援を行う体制を整えた。

CLPを導入し、クラブの現状を把握し理想のクラブ像を造り、目標を設定し、目標に基づき委員会構成とクラブ細則を変更する。奉仕プロジェクトや親睦活動に総ての会員が積極的に参加し、継続的な研修の機会を提供するクラブを作る。例会、委員会活動や奉仕プロジェクトに、一人一人の会員が主体的

## 2007～2008 地区協議会報告書 ●

に参加する事によって会員満足度が高まる。会員の充実感、参画意識、やりがいをもつ事によって、クラブ全体の組織活力が高まり活力のあるクラブになる。

管理運営委員会ではCLPの導入・運営支援の為、卓話や研修の出前サービスを行いCLP導入のサポートを行う。

石原IT委員長よりIT委員会の活動計画の説明が行われた。

メーリングリストを作る事により、地区よりRC事務局への情報発信が効率よく行うことができる。さらにペーパーレス化により経費の削減もはかる事が出来る。しかし、未だメールを使っていないクラブがあるので、IT委員会としても開設に向かって協力するとの事である。

クラブのホームページを持っていないクラブに対し、IT委員会でホームページ作成のお手伝いも行うとの事であり、ホームページ上での広報活動等を考えているクラブはこの機会を利用して頂きたいと、熱意溢れる説明が行われた。

もりだくさんの内容であった為、時間が足りなくなったが、これからのロータリー活動に大いに有意義な分科会であった。

第3分科会A

青少年交換委員会、世界社会奉仕・友情交換委員会

カウンセラー パストガバナー・地区研修委員 清 章 司  
リーダー 青少年交換委員長 小 暮 高 史  
サブリーダー 世界社会奉仕・友情交換委員長 大 島 雅 彰

報 告

第2分区Bガバナー補佐 菊池 榮 作



(1) 青少年交換委員会

冒頭に「予算はたっぷりあります。クラブの負担はゼロです。安心して一年交換学生、夏期交換学生を推薦して欲しい」との話があり、実情として学生の応募が少なく青少年交換プログラムが良く理解されていないとの思いが語られました。従来夏期交換はローテーションを組んで、各クラブに均等の機会を与えました。しかし現在はキャンセルするクラブが多いため、このシステムは今はなく公募して学生を集めているのが実情です。

地区内において一年交換、夏期交換を経験したクラブは半分で、できれば未経験クラブにチャレンジして欲しい。又、ポスターや新聞等を使い生徒にアピールしていきたいと提起されました。

青少年交換の経験は、青少年に測り知れないほど好影響を与えます。地元の青少年に貴重な体験の機会を提供するだけでなく、外国から迎える学生と自分達の文化交流が出来るのです。交換学生の意義を熱く語りました。

(2) 世界社会奉仕・友情交換委員会

ロータリー友情交換の目的は、他国のロータリアンの家に滞在することでロータリーの国際性を体験し世界理解を推進することです。

## 2007～2008 地区協議会報告書 ●

友情交換には2種類あり、一つは個人、もう一つはチームで相手国のロータリアンの家庭に数日間滞在するもので家族も同行出来ますと説明がありました。

次に世界社会奉仕委員会に移り、委員会の目的、今年度の事業計画が発表され特にWCS活動に力を入れたいとの思いが伝わってきました。

WCSにしてもマッチンググラントにしても活動への一歩をふみ出すには友好クラブ締結をすると容易になる。相互の情報がスムーズになり理解と友情を深め、MGの意味あるプログラムの立案が易くなるからです。そして、WCSの極意として、百聞は一見に如かず、百聞は一臭に如かず、大島委員長の卓越した感性、感覚を感じいる一節であります。

ドブ川のすさまじい悪臭を感じたとたん清流に変えたい、周辺の住民に安心して飲める水を確保したい、ロータリアンは匂いに敏感であれ、そして行動しようと提起されました。

又、WCSの一例として、フィリピン刑務所に劣悪な環境の女囚に二段ベッド寝具、扇風機、ミシン、教育の道具、コンピューターを贈り環境を改善、結果全ての女囚が間としての尊厳を取り戻し、手に職をつけ立派な社会人に更正したそうです。

最後に理想的なWCSとは、投資効果が高く自立型がよい。特に教育の道具を供与すると有効である。地域住民の職業人としての質的向上を助成し就労率を高め、やがてこの事はその地域に定着するでしょう。

貴重なアドバイスでした。



## 第3分科会B

## ロータリー財団委員会

カウンセラー	パストガバナー・地区研修委員	清	章	司
カウンセラー兼リーダー	パストガバナー・ロータリー財団委員長	森	田	均
サブリーダー	研究グループ交換・学友会・ポリオプラス委員長	内	山	均

## 報 告

## 第3分区ガバナー補佐 安藤 震太郎

## 1. ロータリー財団分科会に於ける検討内容

分科会はロータリー財団委員長 森田パストガバナー及び清パストガバナーの指導の下に財団の使命と役割、奉仕活動と資金調達、寄付金の使途、年次寄付の目標について説明を頂いた。時間の関係からすべてを説明しきれないが、詳細は8月25日開催の財団セミナーにて説明する。

## (1) ロータリー財団の使命と役割

ロータリー活動は博愛及び人道的な行事を推進することを目標としている団体でありその中核をなすのがロータリー財団活動である。それを地区・全国・国際レベルにて行い世界理解と平和を達成させる役割を担うものである。

## (2) 奉仕活動と資金調達

これは車の両輪のようなもので両方があって目的を果たす。従来ややもすると資金調達に重点が置かれている嫌いがあるが資金調達を入り口とすると出口は奉仕活動である、奉仕活動を行うことにより財団の意義が理解され資金調達がスムーズになる、会員に対して理解と説明をお願いする。

## (3) 寄付金の使途

年次寄付はシェアシステムにより寄付された年次から3年後に使用される仕組みである。(横山年度は山崎年度の年次寄付金を使用できる)又寄付総額の50%を地区財団活動資金として還元される。(残りは国際活動資金となり教育的プログラムや人道的補助金プログラムなどを通じて有効に使用される) ちなみに津久井年度は190万円の予算であり、横山年度の予算は17,400ドルとほぼ前年並みの金額となるので積極的に有効な活動に使用してほしい。

## (4) 年次寄付並びに恒久寄付の目標

横山年度の年次寄付の目標は200,000ドルである、地区の会員数で割ると一人当たり100ドルの寄付額になる目標の必達をお願いする。恒久基金5000ドル又大口寄付(1万ドル)にしてもらう人を3名さがす。

以上の様な解説及び目標の提示があった。

## 2. 危機管理委員会に於ける検討内容

分科会は委員長森田パストガバナーの指導の下に検討が行われた。冒頭森田委員長は委員会設立の経緯について以下のように解説された。ロータリーの重要かつ大切なプログラムの一つである[青少年交換プログラム]に於いて、これまで稀に青少年が事件事故あるいはハラスメントの被害を蒙るトラブルが発生する場合があった。これに対して国際ロータリーはこれらの問題について保険加入その他危機管理の具体的指針が示された。これを受けて第2840地区は2006年10月22日危機管理規定を制定し危機管理委員会が発足した。

以上の事で本年度より新たに加わった委員会である。幸い今までに問題の発生は無いが今後保険一つをとっても難しい問題もあり注目して経緯を見守ってほしい。

第4分科会

新世代奉仕委員会

リーダー インターアクト委員長 大本計馬  
サブリーダー ローターアクト委員長 中島博  
ライラ委員長 蓮直孝

報 告

第4分区Aガバナー補佐 中村康夫



建設的な計画がなされ各リーダーの熱意が感じられ非常に良かったと思います。

インターアクトの海外研修では約半分の7万円で3泊4日の台湾研修に参加できるので大勢の人に是非参加して欲しいと要望がありました。

ローターアクト、ライラ委員会に関しては年齢制限等があり年々メンバーが減りこのままでは存続が危ぶまれると言う切実な意見で終始いたしました。ロータリアン自体の減少も影響しているとは思いますが私たち役員だけの努力でどうなるものでもありません。ロータリアン一人ひとりが夫々自分たちの問題として心配し考えて欲しいと訴えました。このことで質疑応答の時間の大半が費やされ問題の根の深さを、本当に皆さんが心配なされていることを痛感いたしました。

こういった場に若い人たちがこぞって参加すれば必ずや将来を背負っていく指導的な人材の育成も出来、ロータリーの理念、理想を伝える事が出来ると思います。

若い世代の人たちが勉強だけでなく常に人を思い、家族を大事にする人間愛スタイルを感じとってもらいたいです。

心が変われば行動が変わる、行動が変われば習慣が変わる、習慣が変われば人格が変わる、人格が変われば運命が変わる。

先生や先輩そして指導者に恵まれると努力が出来ます。努力出来ることは才能でもある。